



バスタ[®]の ここがオススメ!

バスタの特長

- 多くの作物に登録があります。●スギナやツクサなどの問題雑草にも効きます。
- 効果が長く、長期間抑草します。●作物、人畜、環境にやさしい除草剤です。

□・BASF

We create chemistry

詳しくはバスタの情報サイトへ
www.basta.jp/

除草剤バスタ 検索

登録番号:第20958号



オススメ 1 100倍で、問題雑草も枯らす!

バスタの基本は100倍散布。
スギナをはじめとする、ほとんどの雑草に効果があります。
混在し、見分けにくい「一年生雑草」「多年生雑草」も、
バスタで一度に防除してしまいましょう。

100倍で
スギナも
この通り!



■バスタの希釈早見表

		水 量			
		1ℓ (0.6升)	5ℓ (2.8升)	10ℓ (5.6升)	15ℓ (8.4升)
バ ス タ の 量	100倍	10mℓ	50mℓ	100mℓ	150mℓ
	150倍	7mℓ	34mℓ	67mℓ	100mℓ
	200倍	5mℓ	25mℓ	50mℓ	75mℓ

多年生雑草には
100~150倍

10アール(1反歩)あたり
バスタ2本(1,000mℓ)
+
水100~150ℓ



※500mℓ
ボトル
の場合

一年生雑草には
200倍

10アール(1反歩)あたり
バスタ1本(500mℓ)
+
水100ℓ(56升)



※500mℓ
ボトル
の場合

*各作物での使用薬量については、ラベルの記載に従ってください。

オススメ 2 大切な作物のそばでも安心!

登録作物が多く、
さまざまな場面で使用できます。
もちろん、駐車場・家まわりでも使用できます。



オススメ 3 散布器具は、ジョウロでもOK!

雑草全体がムラなく濡れるように散布してください。
特別な散布器具やノズルは、必ずしも必要ではありません。



詳しいジョウロ散布のやり方は、中面をご覧ください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。

バスタはジョウロで散布できるから、 はじめてでもかんたん・安心。

ご使用の際には、ボトルラベルをよく読んでください。
使用する作物によって、使用量・時期・回数が異なるのでご注意ください。

■用意するもの



(あると便利)
ガムテープ
(ジョウロの
はす口に貼る)
※使い方は右下

Step 1 水で薄める → Step 2 雑草にかける → Step 3 枯らす

バスタの
使い方

まず、バスタ液剤を
水で100~200倍に薄めます。

バスタはほとんどの雑草に対して、
100~200倍希釈で効果を発揮します。

例) バスタと水の比率
1 : 100



次に、薄めたバスタ液を
ジョウロで散布。

雑草の葉・茎など、全体が濡れるように
ムラなくかけるのがしっかり枯らすコツ。



注意 枯らしたくない植物・農作物には
かからないよう注意して散布してください。
ジョウロのはす口をガムテープでマスキングすると、液剤
の広がりや量を調整でき、飛散を防止できます。
(はす口のマスキング方法は右下参照)

あとは、
ただ枯れるのを待つだけ!

散布後2~5日で雑草は枯れ始め、7~10日後には
完全に枯れあがります。また、効果も長く続きます。



**100倍希釈で
ほとんどの雑草を
枯らします!**

■バスタの100倍希釈早見表

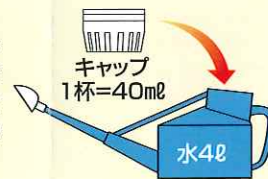
バスタ液量	水量
20ml	2ℓ
40ml	4ℓ
60ml	6ℓ
80ml	8ℓ
100ml	10ℓ

100倍希釈液の作り方

例えば、100倍のバスタ希釈液を4ℓ作る場
合は、バスタ40mlを水4ℓで薄めます。詳しく
は、左の「100倍希釈早見表」をご覧ください。
計量カップが無い場合は、バスタのボトル横
にある目盛りを見ると、ボトルから出たお
よその量が分かります。

使う量が少ない場合

バスタのボトルキャ
ップ1杯が40ml。それを
4ℓの水で薄めると
100倍のバスタ希
液が作れます。



はす口のマスキングと散布方法

ジョウロから散布液が出過ぎる場合は、はす口の両
端にガムテープを貼り、水の吐出量を調節すると良
いでしょう。実際にまく際は、散布ムラをおこさない
ように、はす口を下向きにして、一気に噴き出さない
ようにしましょう。小さく左右にふり、雑草全体に散
布液がかかるよう、ていねいにまいてください。

